

## 《教育長メッセージ 第28号》

### 『卒業式』

海老名市内では、3月14日に中学校の卒業式があり、3月23日に小学校の卒業式がありました。

小中学校では、3月に入ると卒業式の練習が始まります。式の流れや卒業証書の受け取り方、呼びかけや歌の練習をします。

卒業式の練習の日は、なぜか、寒い日が多いという印象です。そんな中、練習を重ねる度に、子どもたちの卒業への思いが高まってきます。その姿に練習の時から、心が揺れます。

卒業式当日は、出席した方々をご存知でしょうが、子どもたちの姿や歌声が涙を誘います。卒業式は本当に感動的なセレモニーです。

最近では、多くの保護者の方が出席されます。昔は、夫婦でなんか来なかったのにと声を聞かれますが、多くの人に出席していただいた方が、私は、うれしいです。来賓の方々も含め、できるだけ多くの大人に、子どもたちの門出を祝ってほしいと思いますし、子どもたちの成長を目の当たりにして、感動的なセレモニーを味わってほしいと思うからです。

さて、教員の側からするとどうでしょう。卒業式は、よく「最後の授業」と言われます。呼名を絶対に間違えてはいけないという緊張感もあります。練習の成果が発揮できるかという指導の結果も気になります。6年生、3年生の担任、担当は、卒業の日を迎えるまで、子どもたちの指導に多くの労力を費やします。

しかし、最後の授業は、教員の心配をよそに、子どもたちが自分たちの卒業式としてやり遂げ、指導の倍の感動を返してくれるのです。

卒業式は、教員にとっても、感動的な時間なのです。

そして、式が終わって教室での別れの時となります。

担任をしていた頃、この時間がつらい時間でした。一年間、ともに過ごした空間を閉じることは、寂しいことでした。また、担任として、子どもたちに最後に贈る言葉に迷いました。いつも、子どもたちへの感謝の言葉といつまでも元気でいてほしいという願いを伝えるのが精一杯でした。教員ならではの懐かしい思い出です。

私は、そんな卒業式に、職として、毎年、小学校1校と中学校1校の2校に参加できることをありがたく思っているところです。なぜなら、プライスレスの素敵な時間を子どもたちと共有できるのですから。



次回は、今、社会問題化している「子どもの貧困」について、私の考えを述べてみようと思います。